

「ボランティア養成セミナー」

1. 趣旨

ボランティア活動への興味や具体的なイメージをもち、ボランティア活動に参画したいという意識を育て、ボランティア活動を行う上で必要な知識・技能について講義、演習、実習を通して習得する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和元年5月18日(土)～19日(日)

(2) 参加者

- ①参加対象 高校生以上
- ②参加人数 39名(応募45名 キャンセル6名)
- ③参加者の内訳 大東文化大1名、群馬県立女子大6名、亜細亜大11名、共愛学園前橋国際大3名、高崎経済大3名、高崎健康福祉大4名、群馬大7名、社会人4名
- ④登録者数 38名

3. 企画運営のポイント

- ・ボランティア活動に取り組む上で必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるようにする。
- ・法人ボランティアとして活動してきた学生ボランティアに、自らの体験談を発表することで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせ、前向きに取り組んでいこうとする態度を養う。

4. 日程

	午前	午後	夜
5月18日 (土)	開会行事 講義「青少年教育施設の現状と運営」 講師：国立赤城青少年交流の家所長 松村 純子	講義・演習「救急救命法と安全管理」 講師：前橋市消防局北消防署白川分署 演習「ボランティア活動の技能」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 横山 直樹 奈良 貢 福岡 公平	
5月19日 (日)	講義「ボランティア活動の意義」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 講義「青少年教育」 講師：群馬県立女子大教授 宮内 洋	説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 横山 直樹 法人ボランティア 松本 直樹 山本 周吾 岩田 菜緒	

5. 主な活動内容



「青少年教育施設の現状と運営」



「救急救命法と安全管理」



「野外炊事」



「ボランティア活動の意義」



「青少年教育」



「青少年教育施設における
ボランティア活動」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 32名 (82%) やや満足 6名 (15%) やや不満 1名 (3%) 不満 0名

(2) 参加者の声

- ・「青少年教育施設の現状と運営」の講義で、青少年の現状を知ることができた。また、子ども達のモデルとなるボランティアになりたいと思った。
- ・「救急救命法と安全管理」の演習で、自分たちが行うべき適切な処理を学べた。
- ・「ボランティア活動の技術（野外炊事）」の実習で、班で協力して団結力が生まれることを体験することができた。また、火の扱いや調理、準備など多くのことに関わられた。
- ・「ボランティア活動の意義」の講義で、ボランティアに取り組む姿勢を学べた。また、ボランティアをやってみたいという気持ちが大きくなった。
- ・「青少年教育施設におけるボランティア活動」の説明で、実際にボランティアに参加した方の体験や感想が聞いて良かった。また、やってみることが大切だと思った。
- ・全体を通して、良い仲間に恵まれた。また、自分の幅が広がった。ただ、もっと参加者同士で話し合いをする時間があれば良かった。

(3) 成果

- ①参加者から「青少年の現状を知ることができた。」や「自分たちが行うべき適切な処理を学べた。」などの意見があることから、講義では知識を理解することができ、演習では、体験を通して実感的に理解することができた。
- ②参加者から「実際にボランティアに参加した方の体験や感想が聞いて良かった。」などの意見があることから、先輩ボランティアの発表を聞くことは、ボランティア活動に前向きに取り組もうとする意欲をもつことができた。

(4) 課題

- ①参加者から「もっと参加者同士で話し合いをする時間があれば良かった。」との意見があることから先輩ボランティアと参加者でグループトークをするなどの時間を設定する必要がある。
- ②参加者から「ちょっと駆け足になって、登録への記入が大変だった。」との意見があることから、登録制度への記入の手順を明確にし、情報を整理し記入できるようにする必要がある。

担当：横山、奈良、福岡